

## 1 4. 国際協力室

室長 中嶋建介（～H23.6.26）

宮川昭二（H23.6.27～）

### 概要

近年の国際交流の進展にともない、公衆衛生上の大きな脅威となるような新興・再興感染症が、地球上のあらゆる地域から、短期間のうちに国内へ侵入する可能性が高まっている。21世紀最初の重篤な新興感染症であるSARSを始め、米国等で流行中のウエストナイル熱、アジアを始めとする世界各国の動物で流行しヒトへの感染例が増加している鳥インフルエンザH5N1、そしてインド周辺国で流行中のチクングニヤなど、例にいとまがない。このような状況において、世界規模での情報収集、研究・技術面での国際貢献等、諸外国の研究機関や国内関係機関との連携調整が重要になっている。

国際協力室は、平成9年設置後、国立感染症研究所の所掌事務に係る国際的な協力と調査及び研究の調整を行っている。具体的には、外務省、独立行政法人国際協力機構（JICA）、社団法人国際厚生事業団（JICWELS）等から厚生労働省、国立国際医療研究センター等を通じて依頼される開発途上国等に対する技術協力（外国人研修員の受け入れを含む）の調整、世界保健機関（WHO）・世界保健機関西太平洋地域事務局（WPRO）等の国際機関及び外国政府機関等との協力（感染症国際対策のための専門家派遣、保健大臣等要人の受け入れ等を含む）の調整、関係外国研究機関との協力調整等、以下のような業務を実施している。

#### I. 諸外国との技術協力の調整

諸外国との技術協力については、外国人研修生の受け入れと、国立感染症研究所からの専門家の派遣といった人的交流がその中心となる。外国人研修生の受け入れについては、平成23年4月から平成24年3月までに、54カ国から243名の外国人研修生を受け入れた（別表1）。また、国立感染症研究所の専門家の派遣については、平成23年4月から平成24年3月までに、48カ国429名の派遣を行った（別表2）。

また外国政府機関との協力については、関係国と

の国際シンポジウムの開催、新興・再興感染症の発生地域への緊急職員派遣等を行っており、その概要は以下のとおりである。

#### 1. 外国機関との連携協力

##### (1) 各国との感染症協力体制

###### ア シンポジウム開催

(ア) 平成23年10月13-14日 公益法人台湾交流協会からの依頼に基づく第8回日台シンポジウムの開催（戸山庁舎において、ウイルスの耐性並びに食品媒介疾患及び共同研究を題材に。）。

(イ) 平成23年11月17日 日中韓の国立感染症機関〔感染研、中国国立疾病対策予防センター（CDC）、韓国国立感染症対策センター（CDC）〕の第5回共同シンポジウムの開催（韓国Osongにおいて、公衆衛生における気候変動及び自然災害の影響、公衆衛生における現状と課題を題材に。）。

(ウ) 平成24年2月20日 中国食品医薬品検定研究院（NIFDC）との第1回日中シンポジウムの開催（北京において、ワクチン品質管理及び研究を題材に。）。

###### イ 外国機関へのワクチン株供与

(ア) 平成23年6月韓国食品医薬品安全庁（KFDA）へ安全性試験用並びに力価試験用参照百日咳ワクチンを供与。

#### 2. 国際協力・研修業務

##### (1) JICAとの研修協力

###### ア 集団研修

(ア) 平成23年6月13日-7月16日 HIV感染診断とモニタリングのための実験室検査技術（8カ国・12名・エイズ研究センター）。

(イ) 平成24年1月16日-2月10日 ポリオ及び麻疹を含むワクチン予防可能疾患の世界的制御のための実験室診断技術（6カ国・8名・ウイルス第二部）。

(2) JICA 技術プロジェクト

ア ベトナムにおける JICA 協力(高危険度病原体に係るバイオセーフティ並びに実験室診断能力の向上と連携強化プロジェクト支援のための技術協力等)。

(ア) 派遣

- ① 平成 23 年 6 月 12-24 日 バイオセーフティに関する指導を行うためバイオセーフティ管理室職員 1 名をベトナム国立衛生疫学研究所(NIHE)に派遣。
- ② 平成 23 年 7 月 24-30 日 GMT (炭疽)に関する指導を行うため獣医科学部職員 1 名をベトナム NIHE に派遣。
- ③ 平成 23 年 7 月 27 日-8 月 6 日 GMT (狂犬病)に関する指導を行うため獣医科学部職員 1 名をベトナム NIHE に派遣。
- ④ 平成 23 年 8 月 1-10 日 GMT(コレラ)に関する指導を行うため細菌第一部職員 1 名をベトナム NIHE に派遣。
- ⑤ 平成 23 年 11 月 2-9 日 GMT(ペスト)に関する指導を行うため細菌第一部職員 1 名をベトナム NIHE に派遣。
- ⑥ 平成 23 年 11 月 2-12 日 GMT (鳥インフルエンザ)に関する指導を行うためインフルエンザウイルス研究センター職員 1 名をベトナム NIHE に派遣。
- ⑦ 平成 23 年 11 月 14-25 日 バイオセーフティに関する指導を行うためバイオセーフティ管理室の職員 1 名をベトナム NIHE に派遣。
- ⑧ 平成 24 年 2 月 5-14 日 GMT(コレラ)に関する指導を行うため細菌第一部職員 1 名をベトナム NIHE に派遣。
- ⑨ 平成 24 年 2 月 27 日-3 月 6 日 GMT (ヒストプラズマ症)に関する指導を行うため生物活性物質部職員 1 名をベトナム NIHE に派遣。

(イ) 受入

- ① 平成 23 年 11 月 15 日-12 月 9 日 バイオセーフティ/実験室維持管理研修のため、「バイオセーフティトレーニングコース」にベトナムタイグエン衛生疫学研究所並びにニャチャン・パスツール研究所から研修員 2 名をバイオセ

ーフティ管理室及びインフルエンザウイルス研究センターに受入。

- ② 平成 23 年 11 月 15 日-12 月 9 日 バイオセーフティ/実験室維持管理研修のため、「実験室維持管理トレーニングコース」にベトナム NIHE 並びにホーチミン・パスツール研究所から研修員 2 名をバイオセーフティ管理室に受入。
- ③ 平成 23 年 11 月 15 日-12 月 9 日 バイオセーフティ/実験室維持管理研修のため、「GMT/狂犬病 トレーニングコース」にベトナム NIHE から研修員 1 名をバイオセーフティ管理室及び獣医科学部に受入。
- ④ 平成 23 年 11 月 15 日-12 月 9 日 バイオセーフティ/実験室維持管理研修のため、「GMT/炭疽(病) トレーニングコース」にベトナム NIHE から研修員 1 名をバイオセーフティ管理室及び獣医科学部に受入。
- ⑤ 平成 24 年 2 月 21 日-3 月 16 日 バイオセーフティおよび GMT/コレラ研修のため、「バイオセーフティコース」にベトナム NIHE 並びにホーチミン・パスツール研究所及びニャチャン・パスツール研究所、タイグエン衛生疫学研究所から研修員 4 名をバイオセーフティ管理室に受入。
- ⑥ 平成 24 年 2 月 21 日-3 月 16 日 バイオセーフティおよび GMT/コレラ研修のため、「コレラコース」にベトナム NIHE から研修員 2 名をバイオセーフティ管理室及び細菌第一部に受入。

イ 中華人民共和国における JICA 協力(ワクチン予防可能感染症のサーベイランス及びコントロールプロジェクト支援のための技術協力等)。

(ア) 派遣

- ① 平成 23 年 11 月 20-28 日 ポリオ実験室診断技術アドバイス等のためウイルス第二部職員 1 名を中国新疆自治区 CDC へ派遣。

(イ) 受入

- ① 平成 23 年 7 月 5 日-9 月 25 日 「麻疹実験室診断」研修のため中国 CDC か

## 国際協力室

- ら研修員1名をウイルス第三部に受入。
- ② 平成23年8月24日 カウンターパート (EPI 疫学) 研修のため保健省、中国 CDC 等の研修員7名を受入。
- ウ インドネシアにおける JICA 協力 (鳥インフルエンザ・サーベイランスシステム強化支援のための技術協力等)。
- (ア) 派遣
- ① 平成23年7月24-30日 プロジェクト運営指導調査に係る調査団員(FETP)として感染症情報センター職員1名を南スラベシ州保健省等へ派遣。
- ② 平成23年8月7-17日 サーベイランス強化のため感染症情報センター職員1名を南スラベシ州保健省等へ派遣。
- エ インドネシアにおける JICA 協力 (感染症の早期警戒対応システム強化プロジェクト支援のための技術協力等)。
- (ア) 派遣
- ① 平成24年3月11-17日 プロジェクト詳細計画策定調査に係る調査団員として感染症情報センター職員1名を保健省等へ派遣。
- オ インドネシアにおける JICA 協力 (安全な医薬品を届けるプロジェクト支援のための技術協力等)。
- (ア) 派遣
- ① 平成23年10月23-29日 ワクチン検定試験に関する指導を行うためウイルス第三部職員2名を国家医薬品食品監督庁へ派遣。
- カ エチオピア国における JICA 協力 (アムハラ州感染症対策強化プロジェクト支援のための技術協力等)。
- (ア) 派遣
- ① 平成23年8月8-19日 プロジェクト運営指導調査に係る調査団員 (感染症サーベイランス) として感染症情報センター職員1名を保健局等へ派遣。
3. 国際機関及び外国政府機関等との協力の調整
- (1) WHO・WPRO 関連調整
- ア 会議等開催
- (ア) 平成23年9月21日 WPRO TAG Meetings 報告会 (戸山庁舎・25名)。
- イ 会議等派遣
- (ア) 平成23年4月26-30日 ポリオ実験室診断小委員会会合 (フランス・1名)。
- (イ) 平成23年5月29日～6月2日 第3回 WHO 西太平洋地域の日本脳炎に関する会議 (ラオス・1名)。
- (ウ) 平成23年8月8～13日 第20回予防接種ならびにワクチン予防可能疾患に関する対策策定グループ会議 (フィリピン・5名)。
- (エ) 平成23年8月9～13日 西太平洋地域での制圧に向けたマラリア対策マネージャー会議 (フィリピン・1名)。
- (オ) 平成23年9月4～10日 第3回西太平洋地区におけるワクチン予防可能疾患実験室ネットワーク会議 (フィリピン・4名)。
- (カ) 平成23年9月11～14日 アジア地域各国の診断ラボ構築指針作成準備会議 (フィリピン・1名)。
- (キ) 平成23年9月19～27日 抗インフルエンザ薬剤耐性株サーベイランス体制の新規構築のための技術指導 (ベトナム・2名)。
- (ク) 平成23年9月20～25日 ポリオ実験室診断小委員会会合および第17回世界ポリオ実験室ネットワーク非公式会合 (スイス・1名)。
- (ケ) 平成23年10月11～16日 ワクチン規制制度強化の国際諮問「戦略的方向性、評価過程と指標」会議 (スイス・1名)。
- (コ) 平成23年10月16～22日 生物学的製剤の標準化に関する専門家会議 (スイス・2名)。
- (サ) 平成23年10月18～23日 西太平洋地域における新興感染症研究所強化に関する会議 (マレーシア・1名)。
- (シ) 平成23年11月22日～12月4日 ブルーリ潰瘍蔓延地域における視察および情報収集 (ガーナ・1名)。
- (ス) 平成23年11月27日～12月1日 新興感染症サーベイランスと対応部門の会議および緊急時/災害時における薬剤耐性菌対策に関する非公式協議 (フィリピン・1名)。
- (セ) 平成24年2月12～16日 WHO 西太平洋地域ハンセン病対策官会議 (フィリピン・1名)。
- ウ WHO による査察
- (ア) 平成23年12月5～8日 VACCINE

## 国際協力室

REGULATORY SYSTEM 評価（2名）。

### エ 国内会議参加

(7) 平成23年9月21日 世界のポリオ対策に関する意見交換会（2名）。

(イ) 平成24年2月10日 PIPアドバイザーグループ会議（3名）。

オ WHO から厚生労働省国際課を経由した対処方針案コメント依頼への対応等。

## 4. その他協力、調整

### (1) 国際会議支援(所内開催)

ア 平成23年11月9-10日 GHSI 1・健康危機情報早期探知システムプロジェクト会議(19名)。

### (2) 国内会議支援(所内開催)

ア 平成23年7月20日 GPEI 独立モニタリング委員会会合の報告会(13名)。

### (3) 海外の要人来訪

ア 平成23年4月12日 葛西健 WHO 西太平洋地域事務局健康危機管理部長来所。感染症等に関する意見交換並びに被災地における感染症サーベイランスについて情報交換。

イ 平成23年7月27日 李雲龍中国食品薬品検定研究院長来所。ワクチン検定業務等について意見交換。

ウ 平成23年11月9日 Dr. David Salisbury(英国保健省予防接種部長)来所。Joint Committee on Vaccination and Immunisation(JCVI)紹介等セミナー講演。

エ 平成23年11月22-28日 Prof. Pagvajav Nyamdavaa(モンゴル医科学アカデミー所長・ナショナルインフルエンザセンター科学顧問・元保健大臣)来所。インフルエンザに関する共同研究、意見交換等。

オ 平成23年12月1日 Dr Shin Young-soo(WPRO 事務局長)、Dr Samlee Plianbangchang[WHO 東南アジア地域事務局長(SEARO)]来所。感染症等について意見交換。

### (4) 感染研セミナー等の開催

ア 平成23年7月19日 Dr Gyanendra Gongal(SEARO 人獣共通感染症技術担当役員)による「南東アジアにおける狂犬病、ニパウイルス、クリミア・コンゴ出血熱、炭疽、鳥インフルエンザ等新興・再興感染症の現状と対策」セミナーを開催(獣医科学部との共催)。

イ 平成23年8月24日 李全楽(中国衛生部疾控局)、王新華(中国甘粛省衛生部)、駒瀬勝啓(感染研)、砂川富正(感染研)等日中麻疹関係者に

よる第4回「日中麻疹セミナー」を開催(国立国際医療研究センターとの共催)。

ウ 平成23年9月21日 渡邊治雄(感染研)、倉根一郎(感染研)、吉倉廣(厚生労働省参与、元所長)による「WPRO TAG Meetings 報告会」セミナーを開催。

エ 平成23年12月16日 吉倉廣(厚生労働省参与、元所長)、矢野安重(仁科記念財団理事・元理化学研究所仁科加速器研究センター長)、賀来満夫(東北大学感染制御・検査診断学教授、東北大学病院感染管理室部長)による「科学技術の社会への貢献と役割」セミナーを開催(学友会との共催)。

オ 平成23年12月21日 宮村達男(感染研前所長)、岡部信彦(感染研)、吉田弘(感染研)による「WHO 西太平洋地域ポリオ根絶証明委員会(RCC)ほか報告会」を開催。

カ 平成24年2月28日 Dr. RODNEY E. WILLOUGHBY, JR.(ウィスコンシン医科大学小児科学、准教授)、井上智(感染研)、飛梅実(感染研)による「狂犬病を発症した患者の脳脊髄液における免疫応答とそのメタボローム解析について」セミナーを開催(獣医科学部との共催)。

## II. その他の国立感染症研究所所掌事務に係る調整等

### 1. 国際交流事業に係る募集・申請等

日本学術振興会等国際交流事業(外国人研究者招へい、国際学会等派遣、二国間共同研究・セミナー等)に係る募集、申請手続、調整等を行っている。

### 2. 国際協力連絡・調整等

二国間科学技術協力協定に基づく協力プロジェクト(スイス等)、実地疫学専門家養成コースに係る調整の他、厚生労働省結核感染症課、JICA、国立保健医療科学院、国立国際医療研究センター等との国際協力連絡・調整等を行っている。

### 3. その他

感染研インターネット上の専用ページ「国際協力」において、国際研究活動の情報を提供している。また、所内専用ページにおいて、全ての職員の海外活動情報(海外出張報告書)を還元している。